

農業と福祉が繋がれば、日本はもっと元気になる



2014年10月に鹿児島労働局長奨励賞を、2015年3月に第5回「日本でいちばん大切にしたい会社・審査委員会特別賞」を受賞した白鳩会。会の歴史は40年以上前にさかのぼり、昭和48年に知的障害者更生施設「おおすみの園」を開園したことが始まり。以降、スタッフと利用者が一緒に汗を流して育つ「共汗・共育」をモットーに、障害者支援施設、障害福祉サービス事業所、グループホーム、ケアホームの開設など福祉の輪を地道に広げ続けてきました。

利用者が一緒に汗を流して育つ「共汗・共育」をモットーに、障害者支援施設、障害福祉サービス事業所、グループホーム、ケアホームの開設など福祉の輪を地道に広げ続けてきました。

利用者が一緒に汗を流して育つ「共汗・共育」をモットーに、障害者支援施設、障害福祉サービス事業所、グループホーム、ケアホームの開設など福祉の輪を地道に広げ続けてきました。

利用者が一緒に汗を流して育つ「共汗・共育」をモットーに、障害者支援施設、障害福祉サービス事業所、グループホーム、ケアホームの開設など福祉の輪を地道に広げ続けてきました。

社会福祉法人 白鳩会 しらはとかい



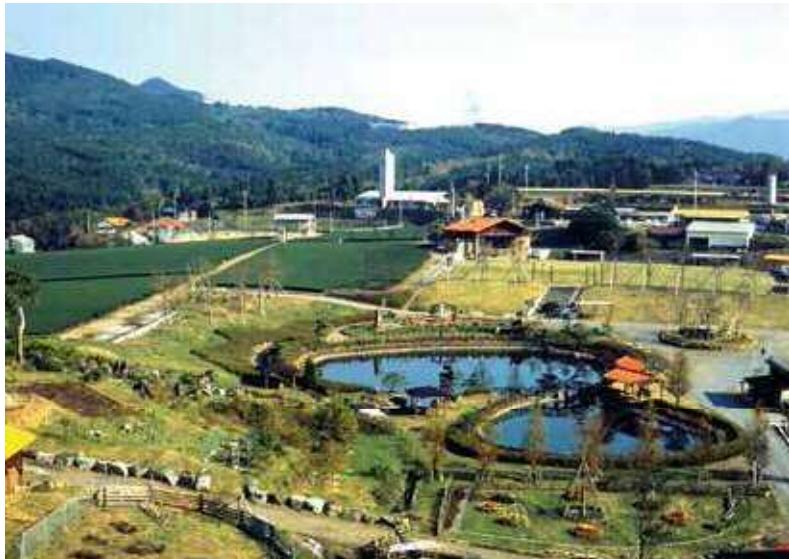
「白鳩会」理事長の中村隆重さんと、「おおすみの園」園長の中村多喜子さん



園のシンボルとなっている彫刻「緑の風」



牛、豚、鶏、鳩をあしらった花の木農場のロゴ



農業、福祉、観光が一体となった「農福連携」を目指す始まりの地

白鳩会の創立から43周年を迎えて、理事長の中村隆重さんは次の40年へ向けた新たな取り組みを開始しました。その一つが、「花の木農場」内に完成予定の新「セルブおおすみ（障害者支援施設）」です。農場では大隅の大自然と向き合いながら、野菜、お茶、牛、豚などを育てています。消費者の厳しい目にも耐えられるモノづくりを目指し、積極的に販売活動を行い、その結果として高い工賃の支給・還元も可能としました。これから40年、理事長が目指すのは「農福連携」の先を行く農業、福祉、観光が一体となった「農福連携」です。大隅の地に拓かれた「花の木農場」を舞台に、しっかりと根付いた中村隆重さんの情熱と口マン。その多種多様な種の数々が、今までに太陽に向かって花開こうとしています。

社会福祉法人 白鳩会
鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北2105
TEL.0994-24-2517



「支援する施設」ではなく、「一緒に働いて生活する場」

を導入しました。いわゆる「農福連携」の原点です。広大な敷地を有する「花の木農場」では、農産物の生産から、食品の製造・加工、販売までを一貫して行っています。理事長の想いは職員や利用者の一人ひとりが共有。働く喜びを分かち合う清々しい汗と笑顔がとても印象的です。